

琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件 日米協ギ (委)

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-12 キーワード (Ja): 日米協議委員会 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43719

議事録

○

○

裁
無期限

德

文書課長

公 信 案 (分類)

タイプ指示	発信用	執務用	計
主 信	1	1	2
付	1		
属			

發送 昭和40年11月18日
 発信 日付 18日 検査

公 信 番 号 米北 第 1206 号	公 信 日 付 昭和 40 年 11 月 18 日	起 案 日 付 昭和 40 年 10 月 30 日
大 臣 政務次官 事務次官 外務審議官 官 房 長	主 管 北米局長 参事官 主任 北米課長	起案者 後藤 電話番号 444

受 信 者 在米 武内大使	発 信 者 権名大臣
------------------	---------------

写 送 付 先	(希望発送日) 月 日
---------	----------------

件 名
沖縄12回対米7回協議委員会
の議事録送付

1 38

米北第1206号

昭和40年11月18日

在米大使殿

外務大臣

沖縄12回対米7回協議委員会

の議事録送付

本件会議の関係資料は既に10月26日付

米北第1284号を以て送付済みですが、当日の

会議議事録を参考迄に送付す。

付属物添付

秘
無期限

北米局長

参事

北米課長

沖縄に關する第7回
協談委員会談事録

昭和40.10.27
北米局北米課

日時 昭和40年10月20日午前10時
場所 外務大臣接見室

1. 椎名大臣(議長)より、第7回協談委員会
の開会を宣し、別途配布した本日の議題
につき意見を求めたのに対し、ライセワ
大使は、米側としては本議題に異存ない旨
答えた。

ついで椎名大臣は、本日の日本側の主要
発言のテキストは英訳を配布済であるので、
通訳は省略したいと述べ、米側はこれに同意
した。

2. 椎名大臣は、議長として挨拶に次ぎ、
本日は、日本政府の対沖縄援助計画に關する

日本側の対案を提出し、米側の検討を願う
わけである。日本側対案中、教育職員給与

費の半額負担は沖縄住民の希望に於ける如
くであると同様に、佐藤総理は、日本政府

全体が多岐の関心を有する問題であり、この
措置が実現すれば、沖縄住民に将来への

希望を与え、日米協力の意義についての理解を
深めたいと述べた。本日提出する

注1. 日本政府のこの措置を通じ米国の施政に悪影響を及ぼす事
は望まぬ。

日本側対案は米側提案の意図と全体の
構成を尊重したものがなっているが、米側の好意

的な検討を期待する旨述べた上、ライセワ
大使の発言を求めた。

3. ランペーター大使は 本日は第6回協誠
委員会において米側案を提出し去来年度の

日本政府の対神縄援助案に對し 日本政府
の対策をうかがった。米側提案は

長期計画に基づいて、神縄の総合的予算
資金需要に合致するようにならされており、神縄

住民の福祉向上のための均衡のとれた
現実的なものであると思ふ、と述べた。

4. 相名大臣はランペーター大使の挨拶に
對し、謝意を表した上、安井総務長官の

発言を求めた。

5. 安井総務長官は、まず、前回の会議の
席上、米側から提出された「神縄の経済

及び社会開発に對する米民政府、琉球政府

合同長期計画案の概要」について、米側提
案の内容が具体的な指標によって裏付け

られている点、神縄各分野の水準引上は
積極的である点に特に敬意を表する、と述

べた上、総合的な説明として、1966年度会計
年度における神縄に對する日本政府の援助

案について、本日も提出された日本政府案の
総額は 5,800,971,417円 (16,113,808ドル)

であり、米提案額 5,708,945,417円 (15,
858,181ドル) を 90,026,400円 (255,627ドル)

上廻っているが、これは米提案額は金額のみ
計上されているが、先島テレビの事業費が含まれて

いるので、実際の総額は米側案よりも下廻り
している、と述べた。

7.117 安井長官は重要項目として、
 教育職員への給与内題、公務員退職年金、
 医療保険に付いて説明を行なった後、沖縄
 の日本復帰問題に付いて、フロンティア局長
 が全島の学歴的宿題に付いて説明した。
 の肩任以来、琉球政府の育成強化、沖縄
 住民の民生福祉の向上のためと見做して積極
 的措置、
 と言ふが、今後とも自治の充実、
 液股制限の緩和等一連の方針を強化して
 いくと述べた。

6. 安井長官の発言を終って椎名大臣は、
 来会計年度日本政府の対沖縄援助に関する
 日本側提案を提示したのと述べた。この
 大儀に付、日本側提案を今年以後、
 との提案理由等の説明を安井長官に依頼

安井長官は山野特選局長を紹介、同局長
 から提案の細目について補足説明を行な
 った。

7. 山野特選局長は説明に於いて、時間
 の節制と理解の便を以て、日本側提案を
 次の4部門に分けて、両配布の整理表に
 して説明した。

1. 米提案と内容金額とも一致するもの
 (24項目 4,329,912ドル
 1,558,768千円)

2. 米提案と内容は一致するが、単価、
 人員、援助率等の相違に於いて金額
 が異なるもの。
 (20項目 11,078,971ドル
 3,988,429千円)

3 今年度は日本政府の援助の対象と
 (以下)の
 (1) 項目 348, 223 トル
 125, 540 千円)

4 米提案には含まれていないが、日本
 政府との新案に追加提案(以下)
 (16項目 204, 927 トル
 253, 774 千円)

小野局長は、最後に、沖縄県の産業振興
 のための融資については、本援助予算とは別に、
 沖縄県理地の受入体制とも関連して、今後
 日本政府部内において検討を加えたい旨
 附言して説明を終わった。

以上の
 8. 椎名大臣は、~~説明~~説明に謝意を
 表した後、日本側の提案について米側から

領内においては発言されたいと述べたのに
 対し、ライセロー大使は、本日の日本側対
 案については技術委員会において更に検討
 した上で具体化されるものと了解しているが
 第32項 教育職員給与費については一言指摘
 (以下) 本項目の金額は米側提案の約1
 1.1倍

日・米・琉3者がそれぞれ3分の1づつを負担し
 将来給与費の増額の可能性もあると
 して
 考慮すべき日本側提案は、^(白米面)米側提案は、^(黒米面)かなり
 9割はなにかと思う。更に日本側案もある

追加提案および修正提案については、米側
 原案と異なるとあるが、その中には、^(以下)
 1. 以下は4案については、技術
 委員会に付託されているので、^(以下)
 米側案の大半は同意しうらと思う。

日米側援助金の増額については、米側援助
金も増額され、しかも総収入は約600万
円に増収が見込まれているので、この
3つのことが実現すれば琉球政府の財政に
相当の余裕を与えるものと思う。最後に、
今日の日米側提案に対し沖縄援助の大部分の
項目については、~~同案とみるべきであった~~
非常な前進であり、~~同案に近くない~~ ことは
米側は、本件最終決定の目的早く（行方不明）、技術委員会と早
通商協定の、この目的早く（本日の協定委員会）関係のことは
9 最後は、権益大臣は、新聞発表に際して
協定したと前置し、昨年と同じ日米側対
案の援助総額および援助の行われる分野の
大要についての説明と金額のみを公表し、この
10 の実施細目と先づきの金額は発表しない
ことになると述べ、米側も異議がなかったため
の通り決定し、商合となった。

秘
無期限

沖縄に関する第7回協議
委員会議事録

昭和40.10.27
北米局北米課

日時 昭和40年10月20日午前10時
場所 外務大臣接見室

1. 椎名大臣（議長）より、第7回協議委員会の開会を宣し、別途配布した本日の議題につき意見を求めたのに対し、ライシャワー大使は、米側としては本議題に異存ない旨答えた。
ついで椎名大臣は、本日の日本側の主要発言のテキストは英訳を配布済みであるので、通訳は省略したいと述べ、米側はこれに同意した。
2. 椎名大臣は、議長として挨拶するにあたり、本日は、日本政府の対沖縄援助計画に関する日本側の対案を提出し、米側の検討を願うわけである。日本側対案中、教育職員給与費の半額負担は、沖縄住民の希望に應えるものであると同時に、佐藤総理をはじめ、日本政府

全体が多大の関心を有する問題であり、この措置が実現すれば、沖縄住民に将来への希望を与え、日米協力の意義についての理解を深めるであろうことを確信する。もとより、日本政府は、この措置を通じて米国の施政に直接影響を及ぼす意図はない。本日提出する日本側対案は、米側提案の意図と全体の構成を尊重したものとなっているため、米側の好意的な検討を期待する旨述べた上、ライシャワー大使の発言を求めた。

3. ライシャワー大使は、本日は第6回協議委員会において米側より提案した来年度の日本政府の対沖縄援助案に対し、日本政府の対案を伺いたい。米側提案は、長期計画に基づいて、沖縄の総合的予算、資金需要に合致するように作られており、沖縄住民の福祉向上のための均衡のとれた現実的なものであると思う、と述べた。
4. 椎名大臣はライシャワー大使の挨拶に対し、謝意を表した上、安井総務長官の発言を求めた。

5. 安井総務長官は、まず、前回の会議の席上、米側から提出された「沖縄の経済及び社会開発に対する米民政府、琉球政府合同長期計画案の概要」について、米側提案の内容が具体的な指標によつて裏付けられている点、沖縄各分野の水準引上げに積極的である点に特に敬意を表する、と述べた上、総括的な説明として、1966日本会計年度における沖縄に対する日本政府の援助案について、本日提出する日本側援助案の総額は5,800,971千円(16,113,808ドル)であり、米提案額5,708,945千円(15,858,181ドル)を92,026千円(255,627ドル)上廻っているが、これは米提案には金額が計上されていない先島テレビの事業費が含まれているので、実際の総額は米側案よりも下廻っている、と述べた。

ついで安井長官は、重要項目として、教育職員の給与費問題、公務員退職年金及び医療保険について説明を行なつた後、沖縄の日本

復帰が全国民の究極的宿願であることにふれ、さらにワトソン高等弁務官の着任以来、琉球政府の育成強化、沖縄住民の民生福祉の向上のためとられてきた積極的措置を高く評価するが、今後とも自治の充実、渡航制限の緩和等一連の方針を強化されたいと述べた。

6. 安井長官の発言を終つて椎名大臣は、来会計年度日本政府の対沖縄援助に関する日本側提案を提示したいと述べ、ライシャワー大使に対し、日本側対案を手交した後、その提案理由等の説明を安井長官に依頼、安井長官は山野特連局長を紹介、同局長から提案の細目について補足説明を行なつた。

7. 山野特連局長は説明に当つて、時間の節約と理解の便をはからつて、日本側提案を次の4部門に分けて、配布済みの整理表によつて説明した。

(1) 米提案と内容金額とも一致するもの
(24項目 4,329,912ドル
1,558,768千円)

(2) 米提案と内容は一致するが、単価、人員、
援助率等の相違によつて金額が異なるもの。

(20項目 11,078,971ドル
3,988,429千円)

(3) 今年度は日本政府の援助の対象としがたいもの。

(1項目 348,723ドル
125,540千円)

(4) 米提案には含まれていないが、日本政府
として新たに追加提案したもの。

(16項目 704,927ドル
253,774千円)

山野局長は最後に、沖縄の産業振興のための
融資については、本援助予算とは別に、沖
縄現^地の受入体制とも関連しつつ、今後日本
政府部内において検討を加えたい旨付言して、
説明を終つた。

8. 椎名大臣は、以上の説明に謝意を表^示した
後、日本側の提案について米側から質問があ
れば、発言されたいと述べたのに対し、ライ

シャワー大使は、本日の日本側対案について
は、技術委員会においてさらに検討した上で、
具体化されるものと了解しているが、第32
項教育職員給与費について一言指摘したい。
本項目の金額については、米側提案のように
日、米、琉球者がそれぞれ3分の1づつを負
担したとしても、将来給与費の増額の可能性
もある点を考慮すれば、日米両案はかなり近
いものではないかと思う。さらに日本側案に
ある追加提案及び修正提案については、米側
原案といくつか異なる点もあり、特に4点に
ついては、技術委員会による討議に待つ要が
あるが、その中にはすでに非公式に討議され
たものも含まれているので、米側としては、
日本側案のほとんどに同意しうらと思う。日
本側援助金の増額については、米側援助金も
増額され、しかも税収入においても600万
ドル程度の増収が見込まれているので、これ
ら3つのことが実現すれば、琉球政府の財政
に相当の余裕を与えうるものと思う。最後に、

本日の日本側提案により、沖縄援助の大部分の項目について同意をみる事ができたことは非常な前進であり、御同慶にたえない。米側としても、本件最終決定をなるべく早く行ないたいので、技術委員会を来週開催の上、できるだけ早く次回の協議委員会を開催することとしたい。と述べた。

9. 最後に、椎名大臣は、新聞発表に関して協議したいと前置きし、昨年どおり日本側対案の援助総額及び援助の行なわれる分野の大要についての説明と金額のみを公表し、いちいちの実施細目とそれぞれの金額は発表しないこととしたいと述べ、米側よりも異議がなかったため、そのとおり決定し、閉会となった。